

[建設] 課 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	R2 年度計画額 (単位 : 千円)		R2 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	会計年度 任用職員
1	土地改良事業	B	110,459	36,520	0.4	0.0
2	道路整備事業	B	112,199	99,000	0.4	0.7
3	橋りょう維持管理事業	B	44,270	13,240	0.3	0.0
4	地方道路等整備事業	A	161,451	133,000	1.1	0.5
5	都市防災総合推進事業	A	475,046	432,700	0.4	0.0
6	河川排水路整備事業	B	40,000	40,000	0.1	0.0
7	街路整備事業	A	47,830	19,061	0.2	0.3
8	公共下水道運営管理事業	B	360,469	250,488	1.5	0.3
9	公共下水道整備事業	A	407,768	180,000	1.8	0.0
合 計			1,759,492	1,104,969	6.2	1.8

■特記事項

--

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課		No.	1
事業名	土地改良事業			
総合計画の体系	基本目標	5	未来へと引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する	
	基本施策	2	産業・経済	
目的	農業経営の合理化を図るため、用排水路の計画的な維持管理を行う。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の進んだ土地改良施設の更新を行い、農業労力の軽減、農業用車両の安全確保及び、用排水路の通水不良の改善等、農業経営の合理化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・道路、河川及び橋りょう工事を含め合理的に整備ができるように計画的な改修及び修繕。 ・用排水路改修の調査検討 	
現在における経過又は課題	<p>○施設の老朽化が進み、要修繕箇所が増大している。営農に支障をきたす箇所においては緊急的に修繕をする必要があるが、広域的段階的に改修を進めていくには、財政的にも将来の土地利用状況を想定しても困難状況である。平成28年度に土地改良施設の再整備に向け県営土地改良事業として整備できるよう、基礎調査及び計画策定を行った。平成29年度に県営事業での採択を行うことで調整をした結果、農地転用条件等から採択を見送ったが、平成30年度に団体営事業として排水路整備着手に向けて採択申請を行い、令和元年度に採択が得られた。今後、経費の軽減を図りながら、排水路の再整備を行う。</p> <p>○県営土地改良事業（合瀬川地区）により荒井堰掛りのパイプラインが完成し、供用開始にむけて平成28年度パイプラインの試験運用を行ったが、水量の配分等に問題が生じた事などから、事業期間を1年延長し調整することとなった。平成30年度には、パイプラインにより通年で灌漑を実施した結果、支障なく営農ができるようになった。今後、パイプラインの財産や管理について、管理者を決める必要が生じている。</p>			
令和2年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○県費補助を活用し整備効果が上がるよう、計画的かつ合理的に整備していく。 ○老朽化した排水路等の改修工事を行う。 ○合瀬川パイプラインの管理者について、関係団体及び関係部署との調整を図る。 			

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 7	合瀬川パイプライン用水管理
9	団体営事業の工事発注 単独土地改良事業の認可申請 認可（予定）
11 ～ 3	認可を受けた施設の改修工事の発注 完了

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	45,131	74,079	110,459
（内特定財源）		千円	9,270	20,940	36,520
人工	職員	人	0.60	0.40	0.40
	会計年度 任用職員	人	0.00	0.00	0.00
	計	人	0.60	0.40	0.40

■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
単独土地改良事業費補助金	1,320	工事請負費
農山魚村地域整備交付金	27,500	委託料・工事請負費
農村振興総合整備事業費補助金	7,700	委託料・工事請負費
合計	36,520	

■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

種別	項目（科目等）	計画額	増減額	内容
12	委託料	2,200	△27,800	設計監理等委託料
14	工事請負費	63,470	58,830	単独土地改良事業、団体営土地改良事業

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 県費補助を活用し一本宮地区の農業用水路改修を行った。
- ・ 老朽化した排水路の改修を計画的に行うため、農山漁村地域整備交付金(国)及び農村振興総合整備事業補助金(県)を受け、秋田地内の排水路の改修を行った。
- ・ 愛知県の実施する水質保全対策事業新岩倉用水地区と整合を図りながら、用水管上部の町管理排水路を計画断面に合わせた改修工事を実施した。
- ・ 合瀬川パイプラインの管理者については、県の中で調整が行われたようであるが、市町を交えての協議は実施されなかった。

■評価

- ・ 一本宮地区の農業用水路改修により通水機能が向上し、良好な営農環境を確保した。
- ・ 国及び県の補助により老朽化した排水路を改修できた。また、新岩倉用水地区の排水路についても、水質保全対策事業と整合を図ることで経済的に改修できた。どちらも断面を大きくしたことから豪雨時の安全性が向上した。
- ・ 合瀬川パイプラインは早急に管理者を決定しなければならないが、進展が見られないことから事業主体である県に対し、決定に向けた調整、協議が行われるよう働きかけていく必要がある。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	2
事業名	道路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	2	生活基盤
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路計画の策定 ・道路用地の購入 ・道路拡幅、改良工事の設計 ・道路拡幅、改良工事の施工 		<ul style="list-style-type: none"> ・主要道路の舗装修繕の実施
現在における経過又は課題	<p>○平成30年度に主要路線に対して新たな舗装修繕計画を策定した。新たな舗装修繕計画に基づき、修繕を実施する。交付金については、重点化に該当しないことから、財源の確保が難しいため、計画通りの進捗が図れるか課題が残る。</p> <p>○幅員4m未満の狭小道路の整備においては、町内の各地区で整備を行ってきているが、土地取得費が必要となることから、事業期間が長くなっている。</p> <p>○国道41号が6車線化され、また、新たに外坪5丁目交差点が新設されたことで、町道内津々線の需要が高まることから、県道宮後小牧線への接続を検討する必要性が生じている。</p>		
令和2年度の目標又は改善策	<p>○舗装修繕については、効果的な工法の採用を検討し、経費の削減を図る。</p> <p>○地権者の用地買収同意が得られた狭小道路について、用地買収を進め4m以上の道路幅員が確保できるようにする。</p> <p>○区要望との整合性を図りながら、道路改良事業を実施し安全な生活環境の整備を図る。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用地の購入 ・道路改良工事の設計、施工（用地、用水時期等条件の整ったものから） 町道下小口87号線（用地交渉）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・舗装修繕工事 ・町道下小口87号線改良工事
9	<ul style="list-style-type: none"> ・大屋敷62号線歩道整備工事
10	

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	115,636	140,158	112,199
（内特定財源）		千円	17,600	15,000	99,000
人工	職員	人工	0.40	0.40	0.4
	会計年度 任用職員	人工	0.70	0.70	0.7
	計	人工	1.10	1.10	1.1

■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
明日のまちづくり基金	99,000	道路改良工事費
合計	99,000	

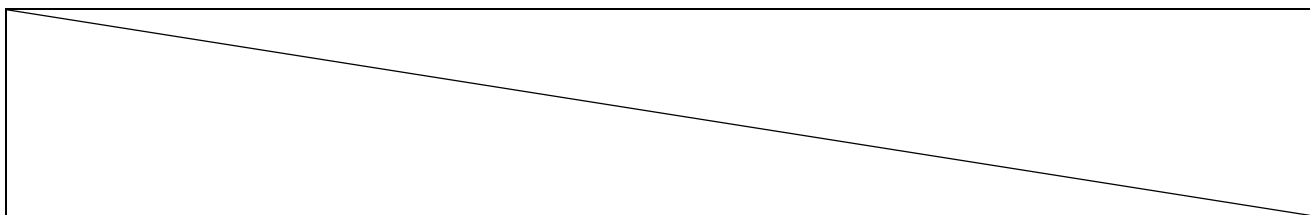
■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

種別	項目（科目等）	計画額	増減額	内容
12	測量詳細設計委託料	24,288	24,288	矢戸川左岸道路計画立案のため

■特記事項



■目標又は改善策に対する取組内容

- ・町道豊三線、町道柏森大口線及び町道役場柏森線の舗装修繕を行った。工法選定にあたっては、経済的な切削オーバーレイにより施工した。
- ・地権者の同意により、狭小道路で懸案であった町道下小口87号線の拡幅工事を行った。
- ・地元要望を受け、一部未施工のためボトルネックとなっていた町道大屋敷36号線の改良を行った。

■評価

- ・老朽化した主要町道の舗装修繕を行うことで、通行車両の安全確保と近隣住居への騒音低減が図れた。
- ・狭小道路の拡幅により、緊急車両が通行できるようになり、地域の安全、安心が高まった。
- ・町道大屋敷36号線の改良により、隣接する事業場へ乗り入れる大型車両が、安全に通行できるようになった。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	3
事業名	橋りょう維持管理事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	2	生活基盤
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋りょうの長寿命化修繕計画の策定 ・ 橋りょうの修繕工事の設計 ・ 橋りょうの修繕工事の施工 ・ 橋りょうの維持管理 		
現在における経過又は課題	<p>○既存の管理橋りょうの多くは高度経済成長期に建設され、老朽化が進行している。道路法の改正により、これらの橋りょうについて適切な維持管理のもと長寿命化を図ることが義務付けられたことから、平成22・23年度に橋長15m以上の橋りょう及び1・2級町道及び緊急輸送道路にかかる橋長2m以上の橋について全体86橋のうち37橋の現状把握と橋りょう点検を行った。平成24年度には、この点検結果を用い、橋りょう長寿命化修繕計画を策定した。また、平成29年度には、橋長15m未満の49橋中、24橋の点検を実施し、平成30年度に残りの25橋の調査を行った。令和元年度には、修繕計画の策定を行った。</p> <p>○10年間の修繕計画では、予算の平準化した金額を計上しているが、点検は5年ごとに行うこととなっており、予算の確保について留意する必要がある。</p> <p>○修繕工事については、平成24年度に作成した修繕計画（10年間で24橋）に基づき、平成26年度から交付金事業として修繕（H26 4橋、H27 2橋、H28 4橋、H29 2橋、H30 3橋、R1 5橋）をしたが、橋りょうの老朽化が想定以上に進んでいるものもあり、実施事業費が当初の予定よりも嵩んできている。</p>		
令和2年度の目標又は改善策	<p>○町が管理する橋りょうの点検の5年目（2巡目）となることから、12橋の点検を実施する。</p> <p>○修繕計画に基づき、老朽化や損傷が著しく緊急度の高いものから修繕工事を施工する。</p> <p>○昨年度に引き続き、点検済橋りょう（合瀬大橋、巾下大橋 合計2橋）の修繕工事を施工する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
7	橋りょう点検（12橋）
10 ~3	修繕対象橋りょうの修繕工事

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	51,729	91,476	44,270
（内特定財源）		千円	6,204	17,435	13,240
人工	職員	人工	0.30	0.30	0.30
	会計年度 任用職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.30	0.30	0.30

■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
橋りょう修繕事業費補助金	13,240	橋りょう維持管理事業
合計	13,240	

■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

種別	項目（科目等）	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・国の交付金を受け、修繕計画に基づき12橋の点検を行った。その結果、1橋が早期に補修を行う必要が合うことが判明した。
- ・国の交付金を受け、点検済橋りょう（合瀬大橋、巾下大橋 合計2橋）の修繕工事をおこなった。

■評価

- ・点検により、橋りょうの健全性を把握することができた。この結果を基に、補修が必要な橋梁について計画的に修繕を実施することができる。
- ・修繕を行った2橋（合瀬大橋、巾下大橋）について、安全性を確保することができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	4
事業名	地方道路等整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	2	生活基盤
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・道路計画の策定・道路用地の購入・道路拡幅、改良工事の設計・道路拡幅、改良工事の施工		
現在における経過又は課題	<p>○平成28年度に将来の土地利用や交通需要などとの整合を図るため、道路規格の変更や土地利用計画の見直しなど道路計画において見直しを行った。道路整備においては、優先順位をつけ計画的な整備に取り組んでいる。特に、町内の幹線道路として位置付けてきた町道秋田21号線始め主要路線の整備効果を上げるため早期の整備を図る。</p> <p>○農道等の法面（土羽）を擁壁とすることで、道路幅員の確保と維持管理費の軽減及び耐震性に向けて整備個所の選定を行い、平成27年度から工事に着手してきた。交通量が多く危険性が高い路線を選定し、整備する必要がある。</p>		
令和2年度の目標又は改善策	<p>○町道秋田21号線と交差する県道宮後小牧線との交差点改良を行う。</p> <p>○町道役場前線の整備に併せて、本線に取り付く町道下小口58号線の改良工事を行う。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用地の購入 ・道路改良工事の設計、施工 町道秋田21号線交差点改良工事（用地取得・工事）

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	305,290	209,566	161,451
（内特定財源）		千円		118,000	133,000
人工	職員	人工	1.1	1.1	1.1
	会計年度 任用職員	人工	0.5	0.5	0.5
	計	人工	1.6	1.6	1.6

■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
地方道路等整備事業債	100,000	工事請負費他
道路改良費補助金	33,000	工事請負費
明日のまちづくり基金	28,000	工事請負費他
合計	161,000	

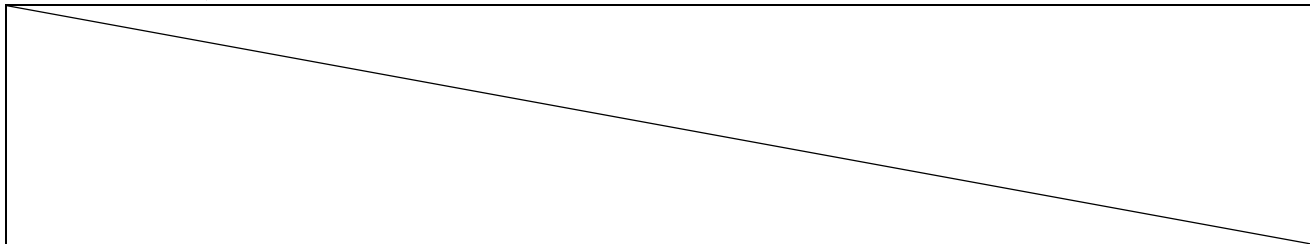
■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

種別	項目（科目等）	計画額	増減額	内容

■特記事項



■目標又は改善策に対する取組内容

- ・町道秋田21号線と交差する県道宮後小牧線との交差点改良を行った。公安委員会による信号機の設置が令和3年度のため、暫定形での供用となった。
- ・町道下小口58号線の改良工事は、町道役場前線工事と工程が重複したため、迂回路を確保できなかったことから令和3年度早期に行うこととした。

■評価

- ・町道秋田21号線と県道宮後小牧線の交差点は、見通しが悪いことから交通事故が多発していたが、交差点改良工事を実施したことで交通事故削減が期待できる。また、令和3年度に交差点南側の町道秋田21号線の歩道整備を予定しており、公安委員会による信号機設置も行われることから良好な交通環境が整う。
- ・町道下小口58号線については、町道役場前線の先行整備により、迂回路が確保できたので早期に施工したい。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	5
事業名	都市防災総合推進事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	2	生活基盤
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの架け替え、拡幅、歩道設置等を図る。		
事務内容	・避難路及び緊急輸送道路の整備		
現在における経過又は課題	○南海トラフ巨大地震等の災害時に備えた避難路や緊急輸送道路の整備が、急務となっている。都市防災総合交付金を活用することで、早期に整備を行い、町民が安全に避難できるようにする。		
令和2年度の目標又は改善策	○避難路として、町道秋田21号線、町道豊田22号線及び上小口71号線の整備を行う。 ○町道野合線のボトルネックとなっている、柿野橋の架け替え工事（上部工）の実施。 ○仲沖地区、二ツ屋地区の避難路として歩道が設置されていない町道野合線の歩道整備を行う。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～	用地交渉（町道野合線）
9 ～	町道秋田21号線、町道豊田22号線、町道上小口71号線 工事着手 柿野橋（上部工）工事着手

■3年間の目標

項目（単位）	H30 計画	H30 実績	H31 計画	R2 目標	R3 目標	R4 目標
避難路・緊急輸送道路整備	設計 柿野橋	設計 柿野橋	工事 柿野橋	工事 柿野橋		
町道上小口71号線			測量	工事	工事	工事
町道豊田22号線			用地・測量	工事	工事	工事
町道秋田21号線			用地・工事	工事	工事・ 測量(2期)	工事(2期)

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R3 年度	・避難路・緊急輸送道路の整備（町道秋田21号線、町道豊田22号線、町道上小口71号線他）
R4 年度	・避難路・緊急輸送道路の整備（町道秋田21号線、町道豊田22号線、町道上小口71号線他）

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	0	215,330	475,046
（内特定財源）		千円	0	200,000	432,700
人工	職員	0.20	0.0	0.40	0.40
	会計年度 任用職員	0.00	0.0	0.00	0.00
	計	0.20	0.0	0.40	0.40

■令和2年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
都市防災総合推進事業補助金	182,700	用地・委託・工事
地方道路等整備事業債	250,000	用地・委託・工事
合計	432,700	

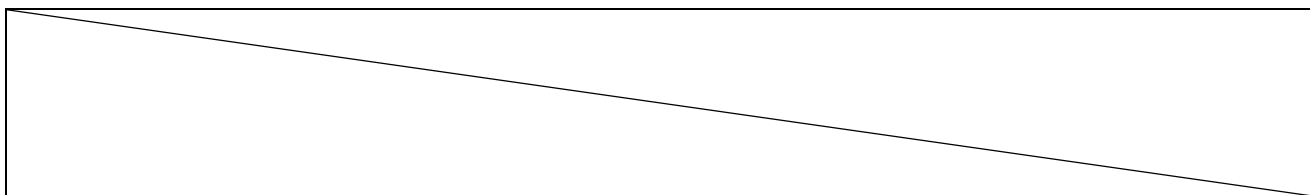
■令和2年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
12	測量設計委託料	0	皆減	町道豊田22号線、町道上小口71号線設計委託完了による
14	工事請負費	457,046	316,110	柿野橋架け替え工事(上部工)、町道秋田21号線、町道豊田22号線
16	道路用地購入費	0	皆減	町道豊田22号線用地完了による

■特記事項



■目標又は改善策に対する取組内容

- ・避難路として、町道秋田21号線、町道豊田22号線及び上小口71号線の整備を行った。
- ・町道野合線のボトルネックとなっている、柿野橋の架け替え工事（上部工）の実施した。
- ・町道野合線は、歩道設置に必要な用地交渉に時間がかかり歩道整備工事ができなかった。

■評価

- ・町道秋田21号線は、県道若宮江南線から県道宮後小牧線までの工事が完了した。また、県道宮後小牧線との交差点は、令和3年度に信号機の設置が予定されている。今後も町内の重要な南北路線として整備を進めていく必要がある。
- ・柿野橋の完成により大型車両がスムーズに通行できるようになり、6車線化が進む国道41号とのアクセスが向上した。また、両側歩道になったことから、大口北小学校に通学する仲沖地区の児童が、町道野合線を横断する必要がなくなり安全性が向上した。
- ・仲沖地区、二ツ屋地区の避難路である柿野橋が完成したことから、残る町道野合線の歩道未設置区間の早急な整備が必要である。引き続き、地権者に丁寧に説明し、用地確保に努め歩道整備を行いたい。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	6
事業名	河川排水路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	5	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	基本施策	1	環境保全
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の整備を図る。		
事務内容	・河川排水路の改良工事の設計 ・河川排水路の改良工事の施工		
現在における経過又は課題	○現在の排水路施設は、土地改良事業により築造された施設が多く、豪雨時の流下能力が不足する水路が多くある。また、老朽化した組み立て水路においては、破損している箇所もあり、早期の改修工事が必要となっている。令和元年度から土地改良事業として、排水路の再整備に着手する。 ○近年の集中豪雨によって、接続する河川の改修がされていないことから、流下能力が不足している。そのため、内水氾濫による浸水被害が発生する危険性が出ているため、河川排水路の改修と合わせて調整池の整備も必要となっている。		
令和2年度の目標又は改善策	○団体営土地改良事業により、主要排水路の改修に着手（令和元年度は、調査設計）する。都市防災総合推進事業の進捗に併せ排水路工事を行う。（土地改良事業） ○合瀬川改修工事に伴う拡幅用地（公共補償）の取得。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	合瀬川改修 拡幅用地交渉
6	地元説明会（合瀬川改修工事）

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	119,852	78,500	40,000
（内特定財源）		千円		25,000	40,000
人工	職員	人工	0.4	0.4	0.1
	会計年度 任用職員	人工	0	0	0
	計	人工	0.4	0.4	0.1

■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
合瀬川公共補償費	40,000	用地購入費他
合計	40,000	

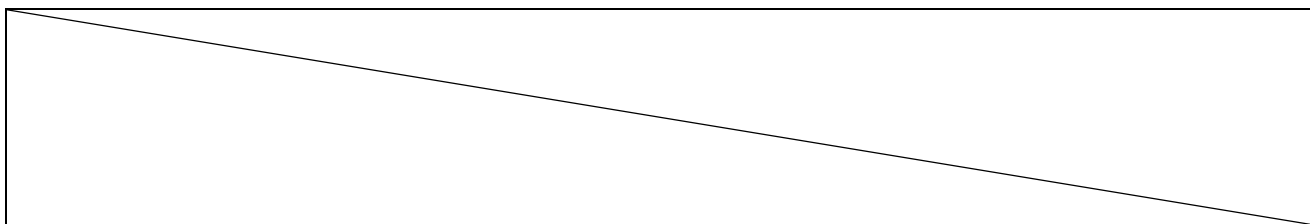
■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

種別	項目（科目等）	計画額	増減額	内容

■特記事項



■目標又は改善策に対する取組内容

- ・老朽化した排水路を再整備するため団体営土地改良事業により、主要排水路の改修事業に着手した。今年度は、排水路改修工事として都市防災総合推進事業と整合を図りながら改修工事を実施した。
- ・愛知県の実施する水質保全対策事業 新岩倉用水地区と整合を図りながら、計画断面に合わせた排水路改修工事を実施した。
- ・合瀬川改修工事に伴う拡張用地（公共補償買収）として、8名の地権者から用地取得を行った。

■評価

- ・都市防災総合推進事業と整合を図ったことで、排水路の断面の改修とともに転落防止柵、防犯灯が設置された。これにより、治水安全度及び、通学路としても利用されている隣接道路の安全性、防犯性が向上した。
- ・排水路を計画断面にしたことにより、治水安全度が大きくなった。また、改修工事を愛知県が実施する水質保全対策事業と整合を図ったことから、機能アップ分のみの費用負担となり経済的に施工できた。
- ・愛知県と協力し河川改修工事に必要な用地の取得を行った。これにより、愛知県が施工する合瀬川の改修工事のさらなる進捗が期待できる。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課		No.	7
事業名	街路整備事業			
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する	
	基本施策	2	生活基盤	
目的	国道41号や国道155号（北尾張中央道）といった広域幹線道路へのアクセスを強化し、集落内の通過交通を排除するため、町内の円滑な道路交通ネットワークの実現に向けて都市計画道路愛岐南北線及び江南大口線、町道役場前線、小口線等の整備を推進する。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・町道小口線並びに役場前線等に関する道路整備に係る事業 ・都市計画道路愛岐南北線、江南大口線等の用地取得事務 			
現在における経過又は課題	<p>○町道小口線並びに役場前線については、現在の未整備区間が、小口線＝920m（県道小口岩倉線～町道大口桃花台線）、役場前線＝280m（役場以東～小口線との交差点）あるが、この路線の早期整備に向け、五条川右岸（小口線の県道小口岩倉～樋田橋間（480m）＋役場前線（280m））を先行して着手していくために、地権者の理解を得ながら、用地を確保する必要がある。現在までに、町道役場前線の用地買収が完了し、町道小口線の約98%の用地買収が完了した。</p>			
令和2年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○先行取得を行った用地の適正な管理を行うとともに、町道役場前線・小口線の整備を計画的に行う。 ○町道役場前線の整備工事の実施。 ○町道小口線の測量設計業務委託の実施。 ○町道小口線の整備工事の実施。 			

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～ ～3	役場前線整備工事 町道小口線測量設計

■3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・この道路の必要性を地権者等にご理解していただき、事業に係る用地についての同意を得る。 ・道路整備工事の実施設計 					
項目（単位）	H30 計画	H30 実績	R1 計画	R2 目標	R3 目標	R4 目標
関係地権者累計（30） 用地取得（パーセント）	50	67	77	100		
町道小口線（22）	30	55	70	100		
町道役場前線（8）	100	100				
実施設計・工事 （役場前線・小口線）		工事	休工	工事	工事	工事
実施設計・工事 （小口線）				測量設計	工事	工事

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・測量設計（小口線） ・工事（役場前線）
R4 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・工事（役場前線・小口線）

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	39,271	47,383	47,830
(内特定財源)		千円	0	20,061	19,061
人工	職員	人工	0.2	0.2	0.2
	会計年度 任用職員	人工	0.1	0.3	0.3
	計	人工	0.3	0.5	0.5

■令和2年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	1	街路整備事業
交通安全対策事業補助金	19,000	工事請負費
用地取得交渉損失補償調印	60	街路整備事業
合 計	19,061	

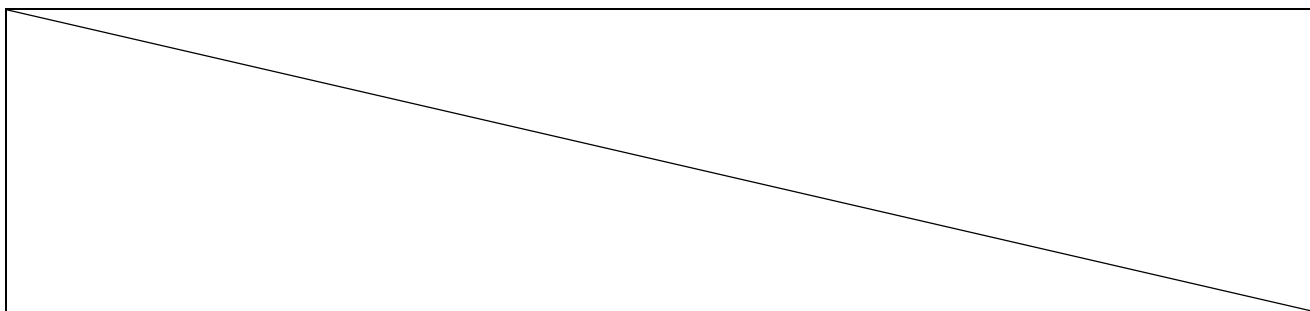
■令和2年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項



■目標又は改善策に対する取組内容

- ・先行取得を行った用地について、雑草を刈り適正な管理を行った。
- ・町道役場前線はJA育苗センター北側から給食センター北側までの区間約170mを整備した。
- ・町道小口線は測量設計に時間を要し工事実施には至らなかったが、工事に向け地元説明会を開催した。

■評価

- ・町道役場前線は、未整備区間が約90mとなり、令和3年度に施工予定となった。また、令和4年度に役場南側の改良工事をもって全線完成の見込みとなった。
- ・町道小口線は、測量設計が完了し令和3年度から工事に着手する。地元説明会を行い、地域、沿線住民の理解を得られた。今回の設計で樋田橋北側までの設計が完了したので、今後は橋を含め町道大口桃花台線までの整備を行っていく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	8
事業名	公共下水道運営・施設管理事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	2	生活基盤
目的	公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質保全に資するために、下水道の円滑な運営を行うため、整備した下水道の有効利用並びに適切な維持管理を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・管路施設維持管理 ・使用料徴収 ・地方公営企業決算状況調書作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・消費税申告 ・工事・供用開始説明会の開催
現在における経過又は課題	<p>○令和2年4月1日現在の大口町における下水道普及率は、92.3%、水洗化率は、83.9%で、それぞれの数値を向上させる必要があり、特に水洗化については、広報による周知、ダイレクトメール等により、未接続者への理解を求めていく必要がある。</p> <p>○平成26年度に農業集落排水施設の公共下水道への編入にかかる、国及び愛知県の事前同意が得られたことから、令和2年4月編入に向けたスケジュールを策定され、そのスケジュールに沿った法手続きが、平成29年度に完了し、令和2年3月に流域下水道幹線への接続が完了した。</p> <p>○地下水位が高い時期に不明水が増加するため対策が必要である。</p> <p>○下水道事業における経理内容の明確化、透明性の向上を図るため、人口3万人以上の団体は令和2年4月までに公営企業会計への移行が義務付けされた。また、人口3万人未満の団体についても令和6年度までに移行する旨の国の指導があることから、制度を理解するとともに令和5年度に移行できるよう作業を進める必要がある。</p> <p>○国から下水道整備については今後5年での概成が求められるなか、適正な下水道事業の継続を実現するために、平成30年度にストックマネジメント計画の策定を行った。今後は、計画に基づく点検と修繕を行うことで、施設の長寿命化を図る。</p>		
令和2年度の目標又は改善策	<p>○水洗化率向上のため、広報での周知、ダイレクトメール及びふれあいまつりでの啓発活動を行い、未接続者に早期接続を促す。</p> <p>○不明水対策として調査、修繕工事を行う。</p> <p>○企業会計への移行に向け、積極的に研修会等に参加し会計制度の理解を深めることと、資産台帳整理を行い、会計システムの導入に向けた検討を行う。</p> <p>○ストックマネジメント計画に基づく管きょ調査を実施する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	不明水調査発注
6	不明水箇所修繕工事発注 地方公営企業決算状況調査作成 管きょ調査（ストックマネジメント計画）
9	消費税申告
11	ふれあいまつりにおいて接続啓発
奇数月 毎月 随時	偶数月1日に使用料請求を行うためのデータ入力 特定事業所排水の水質検査 企業会計研修会への参加

■事業コスト

		単位	H30 年度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	277,045	302,458	360,469
（内特定財源）		千円		250,380	250,448
人工	職員	人工	1.4	1.5	1.5
	会計年度 任用職員	人工	0.1	0.3	0.3
	計	人工	1.5	1.8	1.8

■令和2年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
下水道使用料	240,000	下水道使用料徴収業務委託料 流域下水道維持管理費負担金
汚水処理委託料	448	
社会資本整備交付金	10,000	委託料
合計	250,448	

■令和2年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

項目（科目等）	計画額	増減額	内容
委託料（下水道管路調査）	27,000	△4,000	ストックマネジメント計画に基づく調査
ストックマネジメント計画支援	0	皆減	ストックマネジメント計画に基づく調査委託が完了したため

■ 特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 水洗化率向上のため、広報で接続周知を行ったが、ふれあいまつりは新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、まつりでの啓発活動はできなかった。また、未接続者への戸別訪問も実施に至らなかったが、環境部局と情報共有があった未接続者4件に対し早期接続のPRを行った。
- ・ 不明水調査は、ストックマネジメント計画に基づき管きょ調査を実施した。
- ・ 公営企業法適用に向け、資産台帳整理にともなう工事台帳の整理、システム導入検討を実施した。
- ・ 不明水対策については、管きょ更生工法により河北地区の管きょ補修工事を実施した。

■ 評価

- ・ 環境部局との情報共有により訪問した4件中1件から接続申請があった。今後も広報、ふれあいまつりでの啓発活動を計画するとともに、計画的に未接続者への早期接続を啓発する必要がある。
- ・ 施工から年数が経過している、幹線管きょの調査を行った結果、管きょの状態は比較的良好だった。今後は同じように年数が経過している枝線の調査を行っていく。
- ・ 公営企業会計の実施に必要となるシステム選定を概ね終了し、法適用に向け一歩進んだ。資産整理を引き続き進めるとともに、システム構築の検討を行い、令和5年度に公営企業会計をスタートさせたい。
- ・ 補修工事直下流のマンホールポンプの稼働状況から不明水の減少が確認された。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	建設部 建設課	No.	9
事業名	公共下水道整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	2	生活基盤
目的	公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質の保全に資するために、計画的な下水道の整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・ 下水道管渠の設計並びに工事・ 下水道整備後の道路舗装本復旧工事・ 汚水公共ます、取付管布設工事・ 五条川左・右岸流域下水道建設事業負担金		
現在における経過又は課題	<p>○平成26年1月に国から示された「持続的な污水处理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」により、今後5年で下水道整備を概成するよう求められており、計画的に整備を行う必要がある。</p> <p>○国道41号の6車線化に伴い、占用物件である下水道施設の支障移転工事が必要である。</p>		
令和2年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 10年概成に向け、竹田地区において下水道管敷設工事を施工する。また、竹田地区（2期）の測量設計を行う。・ 国道41号6車線化に伴う支障移転工事を行う。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	竹田地区の測量設計 舗装復旧工事
9	竹田地区の一部下水道工事
随時	汚水公共ます、取付管工事

■3年間の目標

目 標	・右岸の市街化調整区域内集落（竹田の一部）を整備する。							
年月日 （実績）	右 岸		左 岸		合 計			行政 人口 （人）
	整備面積 累積 (ha)	整備人口 （人）	整備面積 累積 (ha)	整備人口 （人）	整備面積 累積 (ha)	整備人口 （人）	普及率 （%）	
H27. 4. 1	263. 3	13, 430	276. 9	5, 654	540. 2	19, 084	82. 0	23, 260
H28. 4. 1	263. 3	13, 618	276. 9	5, 669	540. 2	19, 287	82. 2	23, 470
H29. 4. 1	265. 3	13, 929	276. 9	5, 664	542. 2	19, 593	82. 5	23, 757
H30. 4. 1	269. 9	15, 201	276. 9	5, 664	546. 8	20, 870	87. 1	23, 959
R1. 4. 1	282. 3	15, 360	276. 9	5, 696	559. 2	21, 056	87. 2	24, 149
R2. 4. 1	305. 9	16, 688	286. 9	5, 646	592. 8	22, 334	92. 3	24, 203

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R3 年度	・竹田地区（2期）下水道管渠布設工事
R4 年度	・竹田地区（2期）下水道管渠布設工事

■事業コスト

		単位	H30 度決算額	R1 年度当初予算額	R2 年度計画額
事業費		千円	406,749	429,111	407,768
(内特定財源)		千円		318,600	180,000
人工	職員	人工	1.1	1.8	1.8
	会計年度 任用職員	人工	0.2	0.0	0.0
	計	人工	1.3	1.8	1.8

■令和2年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
下水道受益者負担金	31,500	工事請負費
社会資本整備総合交付金	38,000	工事請負費
公共下水道事業債	100,000	工事請負費
流域下水道事業債	10,500	流域下水道建設負担金
合 計	180,000	

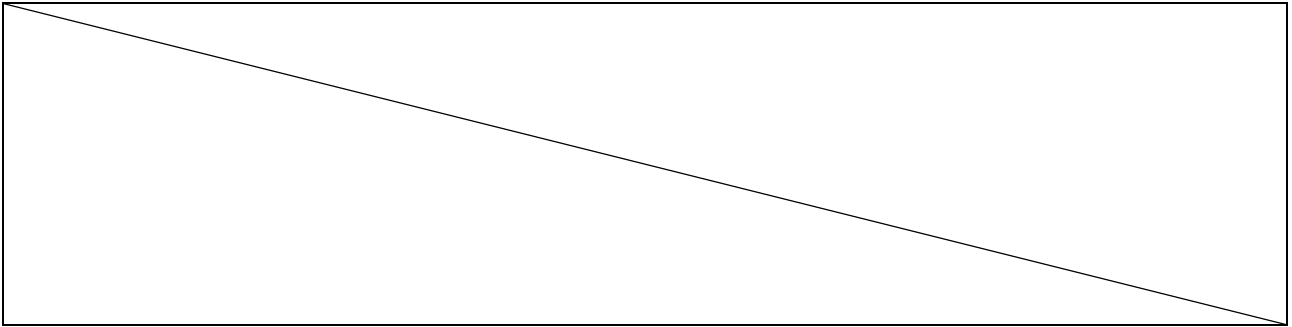
■令和2年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■ 特記事項



■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 10年概成に向け、竹田地区において下水道管敷設工事を実施した。また、竹田地区（2期）の測量設計を行った。
- ・ 国道41号6車線化に合わせ支障移転工事を実施した。

■ 評価

- ・ 令和元年度、2年度に工事を実施したことから、竹田地区の一部の供用開始を行うことができた。また、測量設計にあたり地元説明会を開催し、下水道事業への理解を求めた。
- ・ 発注時期、工程を調整し、国の行う国道41号6車線化事業に支障が生じないよう下水道施設(占用物件)移設工事を実施できた。